

巻頭言

—土木技術者実践論文集の創刊に寄せて—

このたび、「土木技術者の実践」(Professional Practices in Civil Engineering)に主眼を置いた論文集が創刊されたことは、土木技術を活用して国土形成・環境保全事業に携わる官・民の実務技術者のみならず、実践科学としての土木工学を研究・解明し、あるいはその教育指導に携わる学究の方々にとって、さらには、そうした方々が会員となって構成している土木学会にとって、大変意義深いものであると思う。

既知の学術的知見を応用・統合することで社会的ニーズを具現化する実務「実践」行為が、そもそも学術論文の対象として成立するかについては、創刊準備過程において、コンサルタント委員論文編集小委員会の中でかなり議論された。その回答は、日下部治先生と小林潔司先生に執筆いただいた創刊号の二つの招待論文に要約されており、これらによれば、実践型論文は、これまでの学問領域での研究開発型論文とは異なる機能と役割が十分に認められるし、さらに、社会ニーズの中で評価される過程を扱う実践科学という新しい領域の学問体系へ成長する可能性のあることが示唆されている。すなわち、「実践」を通じて学術研究成果の社会貢献が成就されるというプロセスは、いわば「工学の公理」であり、我われが扱う土木工学が「実践」を伴って完結するのは必然である。そうした意味で、今回創刊された土木技術者実践論文集は、土木学会論文集として不可欠な分野の一つを受け持つものとなるべきであろう。また、この論文集は、土木事業の実践に携わる土木技術者にとって自らの活動を普遍化して世に問うことができる機会を与えるものであり、大いなる活用を期待したい。

土木工学が社会ニーズに貢献する課程と成果までを扱う土木技術者実践論文集が、今後、土木学会論文集の中で価値のある論文集として認知され、成長していくには、学術研究分野と同様に、わが国の優れた土木技術者実践事例を論文の形で明示的に海外に向けて発信する論文集に育てていくことが望まれる。そのためには、英文論文の登載を早期に取り込む必要があるだろう。戦後わが国の飛躍的な国土再建に貢献し、また、その実践過程で学習した環境保全や共生に関する研究成果とその実践技術は、特に、これから急速に発展しようとしているアジア・アフリカ地域の国々のニーズに十分応えられる内容のはずである。土木技術者実践論文集が、海外での国づくりと人づくりに対して有益で多様な情報を適時に発信することで、実践情報の国内外での窓口としての役割を持つ「ポータルジャーナル」(ポータルサイトに擬して)と呼ばれる論文集に成長していくこと、そしてそのことが、わが国の実務技術者および研究者の国際競争力の強化に資することを期待したい。

最後に、土木技術者実践論文集の創刊に向けて、多大な努力を伴って献身的に活動されたコンサルタント委員論文編集小委員会の委員各位、また、編集小委員会の監修委員として有益なアドバイスをいただきました日下部治東京工業大学大学院教授に、深甚なる敬意と謝意を表すものである。

2010年3月
土木学会コンサルタント委員会
委員長 廣瀬典昭